2020 年度 全国科学館連携協議会 関東ブロック会議 報告書

日時: 2020 年 12 月 26 日（水）～2021 年 1 月 31 日()
※今回はコロナ禍のため上記期間における書面開催とした。
幹事館: 千葉市科学館
参加: 関東ブロック所属の全 57 会員に書面展開。35 組織から期日までに回答を受領。

[概要]

関東ブロックでは、昨年度から千葉市科学館が幹事間を努めているが、今年度はコロナ禍により書面開催とした。幹事館は 2019 年度より、2 年毎に持ち回りで運営することとなったため、今年度のブロック会議において次期幹事館を選出することとなった。また、コロナ禍で加盟会員がそれぞれさまざまな運営や対応をしているため、情報を共有して今後の運営に活かす機会とした。

[開催報告]

1. 次期幹事館の承認

平成 31 年 4 月に施行された「全国科学館連携協議会関東ブロック幹事選出等に関する要綱」に基づき、2021～2022 年度の幹事館を選出した。規定により、2021 年度は「東京都①」が担当となり、「就業職員数が概ね 10 人以上、年間入館者数が 10 万人以上の会員の中から選出する」という基準に基づき、事前交渉の結果、多摩六都科学館への幹事館交代を案として審議した。関東ブロック所属会員の過半数以上の承認を得たため、2021～2022 年度の関東ブロック幹事館は多摩六都科学館に決定した。

2. 各組織の情報共有

アンケート形式で各会員の運営状況をヒアリングした。科学館等の来客施設を持たない協力会員等にも同じフォーマットでヒアリングしたため、一部の項目は該当しない場合もあったが、35 の加盟会員から回答を得た。なお、ヒアリング開始と同時期に 2 回目の緊急事態宣言が首都圏に発出されたため、回答時期によって宣言前や宣言下の回答が混在している。必ずしも現段階での状況を反映しているものではない。

- 運営状況について

  35 の回答のうち、従来どおりの運営が 15、休館日や開館時間の変更が 10、休館中が 8、該当しないが 2 となった。休館中には、リニューアル中でコロナ禍に関わらず休館している 2 会員も含まれている。開館している 25 会員において、24 会員で展示物を一部休止していた。休止している展示物は会員によって異なるが、感染防止対策が困難であることを理由に「声を出す」、「顔を近づける」、「狭小空間に立ち入る」、「タッチパネル等触る機会が多い」といった要素の展示の休止が多い。

- 感染防止対策について

  各会員の運営形式や規模、所管部署の意向、立地自治体の制限等に依存する場合が多く一様ではないが、定員に関して概ね半分以下としている会員がほとんどであった。入館・入場時の検温や

マスク着用はほとんどの会員で実施している。来館者の記録については、全来場者、教室等のみ、記録なしなど別れた。建物内での来場者の食事については、禁止しているところが多い一方で、団体のみ禁止、団体のみ可と、状況によって異なる場合もあった。入場制限や開館時間短縮等により、活動の場が減っていることに対応するため、オンライン展開に力を入れている会員が少なくないが、開館と並行してオンラインを実施する場合に、予算や人員等の配分に苦労しているケースがあった。これらは多くの会員に共通する課題と思われる。

- **来館者の反応等について**

  講座や教室等について、定員減に加えて他のイベント等の中止や縮小によって、申込が増えて倍率が高くなっているケースがあった。学校団体の受け入れ可としている会員では、キャンセルが増えた一方で、来館実績のない団体の申込が増えたケースがあった。これも前述同様、その団体の従来の訪問先の休館や受入中止に伴い、訪問先を変えているためと思われる。公園内の立地や、複合施設内への入居のため、利用者以外の入館・入場を制限している場合に、トイレのみの利用ができないなどのクレームを受けるケースもあった。

6. 幹事館の所感

昨年度の段階では、今年度の開催を千葉市科学館と考えていたが、コロナ禍でそれが実現せず残念であった。一方で、懸案であった幹事館の交代については、多摩六都科学館に引き受けていただくことが決まり安堵している。引き続き、従来のようなブロック会議の運営が難しいと考えられるが、前幹事館として可能な限り協力していきたい。

ヒアリングの結果では、各会員ともさまざまな対策と工夫で、コロナ禍での運営を模索している印象が大きかった。地域や会員の属性によってケース・バイ・ケースのため、共有した情報をそのまま活かすのは難しいと思われるが、with コロナ時代の新しい様式に対応するミュージアムの有り様の発展につなげていきたい。

以上